

第一章活用事例

小学校三・四年生版「心しなやかに」

「梅一輪 一輪ほどの…」

p.23

中心資料

「植物の不思議にひかれて」牧野 富太郎

（小学校三・四年生版「心しなやかに」 p.46 ~ p.53）

【主題名】 自然の不思議さ

第二学年及び第四学年 3-1②

「自然のすばらしさや不思議さに感動し、自然や動植物を大切にすべし。」

【ねらい】 自然のすばらしさや不思議さに感動し、自然や動植物を大切にしようとする心情を育てる。

《ねらいとする道徳的価値》『三・四年生の時期の児童においては、自然の美しさやすばらしさに感動するともに、その恐ろしさや不思議さなども感じ取ることができるようになります。それらを踏まえて、自然やその中に生きる動植物を大切にしようとする心情を育ていくことが大切です。』



「これまで、花や木などを見て、『きれいだ』『いいな』と思ったことはありませんか。」

○心しなやかに」 p.23 「梅一輪 一輪ほどの…」を読み、身近な自然に目を向けるきっかけとさせて、授業の導入にしましょう。

○牧野富太郎の写真や、描いた植物の絵などを紹介して、資料への興味をもたせましょう。

○教師が「植物の不思議にひかれて」を読み聞かせましょう。



「草木のつくり気付いた富太郎は、どのようなことを思ったでしょうか。」

○自然の中で新たな発見をした富太郎の気持ちに共感させることを通して、自然の不思議さに出合った時の喜びや驚きに気付かせましょう。



「不思議なキノコに出合った時、富太郎はどのようなことを考えたでしょうか。」

○自分の知らない自然の姿に出会った時の、多様な思いを考えさせましょう。



「大人になってからの富太郎は、どのような思いで自然について全国を話して回ったのでしょうか。」

中心発問

○大人になった富太郎の写真や、世界にも認められたことを紹介しましょう。

○富太郎の植物スケッチを紹介して、富太郎が植物のすばらしさを日本中の子供たちに伝えようとしたことにもふれましょう。

○驚きだけでなく、喜びや恐れなど、自分たちを生かしている自然の奥深さ、すばらしさを伝えようとした富太郎の思いについて話し合わせましょう。

《評価》 自然の不思議さや魅力について話し合い、自然に対する考え方や感じ方を広げることができたか。



「動植物や自然のすばらしさに心を動かされ、大切にしようと思ったことはありましたか。」

○自然保護についてもふれましょう。

終末

○教師自身が、自然のすばらしさや不思議さを体験したときの話を、子供たちに語りましょう。

板書例

植物の不思議にひかれて — 牧野 富太郎 —

富太郎の写真

アサガオの写真

満開の桜の写真

初めて草木のつくり気付いた富太郎は、どのようなことを思ったか

- おもしろいな。もっとたくさんさんの草木を見てみたい。
- 不思議だな。なんでみんな同じつくりになっているのだろう。
- いつまでも見ていたいなあ。

不思議なキノコに出合った時、富太郎はどのようなことを考えたでしょうか

- これは、きのこかな。大きいな。
- なんだか気持ち悪いな。
- 毒はあるのかな。
- やわらかいのかな。さわってみたいけど、こわいな。
- なんていう名前なのかな。
- 不思議な形をしているぞ。中はどうなっているのだろう。おもしろいな。
- ほかに、いろいろあるかもしれないぞ。

キツネノハダマの写真

大人になって、全国を話して回る富太郎の思い

- 講演する富太郎の挿絵
- 自然のすばらしさを多くの人に知ってもらいたい。
 - 自然や草木に興味をもってくれたらいいな。
 - 子供たちにも分かってもらえるように、話しましょう。

動植物や自然のすばらしさを感じ、大切にしようと思ったこと

- 毎年、三月になるとさく校庭のさくらが楽しみ。花びらを集めて、くびかざりを作った。
- 山登りに行ったとき、いろいろな花があった。足もとの花をふまないように、気をつけて歩いた。
- 歩いていたら、コンクリートの間から芽を出して、花をさかせている植物があって、びっくりした。

《評価》

自然のすばらしさや不思議さに感動し、自然や動植物を大切にしようとする心情を育てることができたか。